

# C1000-173テスト参考書、C1000-173受験内容

**英語のレベル別おすすめ参考書ガイドマップ**

正しい英語の参考書に取り組み順番＆正しい英語の勉強法で学習すれば  
確実に偏差値40からでも偏差値70に到達できる！

英語の受験勉強において大切なことは、①参考書選び②勉強する順番と目標設定③それぞれの勉強法です。特に勉強する順番と自分に合った参考書が選べるかはとても大切になってきます。確実にやれば成績が上がるものだけをレベル別にまとめたのでぜひ参考してみてください。1つ注意して欲しい点としては、英単語帳、英文法、英文解釈（和訳）の参考書がそれぞれ1冊ずつ終わっていない状態で英語英文の対策をしても全く力がつかないので、それだけは絶対やらないでください。また偏差値は全統模試などではなく駿台模試を基準としているので、通研模試や全統模試などしか受けたことがない人は今の偏差値に-10してから、参考してみてください。目標の偏差値に最短で到達しましょう！

	超基礎	偏差値40-50	偏差値50-60	偏差値60-70
英単語				
英文法				
英文解釈				
英語長文				
英作文				
竹本塾長おすすめ				

さらに、MogiExam C1000-173ダンプの一部が現在無料で提供されています：[https://drive.google.com/open?id=1nI8HIA3Z4I\\_siGOWBby\\_6rVD2kGeimY2](https://drive.google.com/open?id=1nI8HIA3Z4I_siGOWBby_6rVD2kGeimY2)

当社MogiExamのすべてのC1000-173トレーニングファイルは、この分野の専門家と教授によって設計されています。教材の品質は保証されています。すべての顧客の実際の状況に応じて、すべての顧客に適した学習計画を作成します。当社からC1000-173学習教材を購入する場合、C1000-173試験に簡単に合格するための専門的なトレーニングを受けることをお約束します。専門的なトレーニングにより、C1000-173試験に合格し、関連する認定資格を最短で取得します。

MogiExamは、すべての受験者にC1000-173試験の十分な知識を持つ専門家によってコンパイルされたC1000-173テストトレントを提供し、C1000-173学習教材のコンパイルに非常に専門的です。それだけでなく、テストトレントC1000-173の最新情報を保持するために、チームは毎日更新を確認します。最新バージョンを入手したら、できるだけ早くメールボックスに送信します。試験に最適なC1000-173学習教材を提供するのに最適なプラットフォームである必要があります。

>> C1000-173テスト参考書 <<

## C1000-173受験内容、C1000-173模擬練習

MogiExamのC1000-173問題集は多くの受験生に検証されたものですから、高い成功率を保証できます。もしこの問題集を利用してからやはり試験に不合格になってしまえば、MogiExamは全額で返金することができます。あるいは、無料で試験C1000-173問題集を更新してあげるのを選択することもできます。こんな保障がありますから、心配する必要は全然ないですよ。

### IBM C1000-173 認定試験の出題範囲：

トピック	出題範囲

トピック 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Architect with AIシリーズ: このセクションでは、AIソリューション・アーキテクトのスキルを評価し、様々なIBM Watson AIサービスを活用したソリューションのアーキテクチャー設計を行います。Architecting with Watson Assistantでは、会話型AIインターフェースの構築を行います。Watson Discoveryソリューションは、コグニティブ検索およびコンテンツ分析アプリケーションの構築に重点を置いています。Watson Pipelinesソリューションは、データサイエンス・ワークフローのオーケストレーションを行います。Watson OpenScaleアーキテクチャーは、AIモデルの監視とガバナンスを可能にします。Architecting with Match 360は、マルチチャネルの顧客インサイトを統合することで、パーソナライズされたエンゲージメントをサポートします。</li> </ul>
トピック 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cloud Pak for Data 実装計画: この試験セクションでは、実装コンサルタントのスキルを評価し、組織のニーズに基づいて導入する Cloud Pak for Data サービスを決定することが求められます。Kubernetes</li> <li>OpenShift クラスターのワークロード需要に合わせて適切なサイジングを行い、データ保護を確保するためのバックアップおよびリストア戦略を計画する必要があります。高可用性と災害復旧の計画は、サービスの中断なく継続するために不可欠です。共有インフラストラクチャ上で複数のユーザーグループを安全にサポートするには、マルチテナンシー要件を理解する必要があります。既存のデータとワークロードをスムーズに移行するには、移行要件を評価する必要があります。</li> </ul>
トピック 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データソースサービスを用いた設計: このドメインは、データ統合アーキテクトの専門知識を評価するもので、システム間でデータを同期するためのデータ複製テクノロジーを用いたソリューションの設計が含まれます。IBM Data Virtualizationアーキテクチャーは、データを移動することなく、異なるデータソースへのアクセスとクエリー実行を可能にします。watsonx.dataを用いた設計は、インテリジェントなデータレイクとクエリーエンジンの構築に重点を置いています。Db2関連サービスを用いた設計には、IBMのDb2プラットフォームを用いたスケーラブルなデータ管理および処理アーキテクチャーの設計が含まれます。</li> </ul>
トピック 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティ要件: このドメインはセキュリティアーキテクトを対象とし、Cloud Pak for Dataの導入におけるセキュリティ計画に焦点を当てています。通信を保護する証明書、ID管理システム、アクセス制御および承認制御の管理など、ユーザーとサービスのやり取りを安全かつコンプライアンスに準拠したものにするための管理が含まれます。監査機能とエンタープライズ監査システムとの統合は、トレーサビリティとアカウントビリティを確保する上で不可欠です。資産交換セキュリティには、サービス間のデータ移動の保護が含まれます。</li> </ul>
トピック 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析サービス設計: このドメインはデータ分析アーキテクトを対象とし、Cloud Pak for Dataの分析コンポーネントを使用したソリューションの設計に重点を置いています。DataStageを使用した設計には、データ統合とETLパイプラインの作成が含まれます。Data Refineryアーキテクチャーは、分析用にデータを準備およびクレンジングします。Db2 Big SQLソリューションは、大規模な分散データセットに対するSQLクエリーに対応し、多様なデータソースにわたる分析を容易にします。</li> </ul>

## IBM Cloud Pak for Data v4.7 Architect 認定 C1000-173 試験問題 (Q186-Q191):

### 質問 # 186

How many service instances can be provisioned for Watson Discovery at one time?

- A. 0
- B. 1
- C. 2
- **D. 3**

正解: D

解説:

"You can create a maximum of 10 instances per deployment. After you reach the maximum number, the New instance button is not displayed in IBM Cloud Pak for Data."

#### 質問 # 187

What is a primary advantage of using Watson Pipelines in AI solution architecture?

- A. Reducing data integrity
- B. Decreasing the transparency of data processing
- C. Providing end-to-end data processing automation
- D. Isolating data silos

正解: C

#### 質問 # 188

How can IBM Cloud Pak for Data facilitate the management of data compliance and privacy?

- A. By automating data masking processes
- B. By enabling fine-grained access control
- C. All of the above
- D. By providing a comprehensive data catalog

正解: C

#### 質問 # 189

A customer wants to manage Cloud Pak for Data secrets via an existing supported vault system. What is needed to integrate any supported vault systems into Cloud Pak for Data?

- A. Client certificate to authenticate to the vault.
- B. Client key in .key or .pem format to authenticate to the vault.
- C. Fully qualified URL of the vault.
- D. Username and password of the vault.

正解: C

解説:

To integrate a supported vault system with IBM Cloud Pak for Data, the fully qualified URL of the external vault is a required component for establishing communication between Cloud Pak for Data and the vault. This is typically configured in the external secrets manager settings.

While authentication credentials (like client certificates or keys) are also necessary depending on the authentication method used, the fully qualified URL is universally required to locate and connect to the vault.

IBM Cloud Pak for Data supports integration with vaults such as:

- \* HashiCorp Vault
- \* AWS Secrets Manager
- \* Azure Key Vault
- \* IBM Key Protect

For more details, refer to:

IBM Cloud Pak for Data: Using external secrets managers

#### 質問 # 190

What are tethered projects in the context of IBM Cloud Pak for Data?

- A. Projects that do not support multi-tenancy
- B. Projects that restrict any form of data sharing
- C. Projects linked to a specific tenant and its resources within the platform
- D. Standalone projects without any connection to other services

